

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	A設定通過率 (%)	B通過率 (%)	AとBの比較
地理A(1)ア	1	(1) 本初子午線を理解している。	知・技	85	83	—
地理A(1)ア		(2) 本初子午線上に位置する三つの大陸を理解している。	知・技	60	59	—
地理A(1)イ		(3) 日本とニューヨークの時差を計算し、正しく表現している。	思・判・表	40	32	↓
地理B(2)イ	2	(1) 資料からケープタウンの位置情報を読み取り、判断したことを説明している。	思・判・表	45	22	↓
地理B(2)イ		(2) 複数の資料から、アフリカ州の降水量と人口分布についての正しい説明文を選択している。	思・判・表	65	77	↑
地理B(2)イ		(3) 資料を読み取り、歴史的背景が現在の姿につながっていることを表現している。	思・判・表	60	50	↓
地理B(2)ア		(4) モノカルチャー経済を理解している。	知・技	75	46	↓
地理B(2)イ	3	(1) 複数の資料からパプアニューギニアで見られる伝統的な住居を判断し、指摘している。	思・判・表	65	53	↓
地理B(2)イ		(2) 1961年以前のオーストラリアでは、ヨーロッパ州からの移民の割合が高かった理由を、条件に沿って表現している。	思・判・表	45	36	↓
地理B(2)ア		(3) 資料を読み取り、オーストラリアの貿易の変化についての正しい説明文を選択している。	知・技	60	81	↑
地理A(1)ア	4	(1) ① 資料の文を読み取り、島の位置を正しく選択し、沖ノ鳥島を指摘している。	知・技	50	48	—
地理A(1)イ			② 資料の文と地図情報とを関連付け、排他的経済水域を守るために護岸工事を行ったことを説明している。	思・判・表	60	68
地理A(1)ア		(2) 中部地方をさらに細かく区分した地域を指摘している。	知・技	60	32	↓
地理A(1)ア		(3) 日本海流（黒潮）の位置や特徴を理解している。	知・技	75	63	↓
歴史B(1)ア	5	(1) ① 縄文時代の人々が食べ物の残りがすなどを捨てた場所が貝塚であることを理解している。	知・技	60	93	↑
歴史B(1)ア			② 縄文時代の社会の様子について、指摘している。	知・技	50	91
歴史B ア		(2) ① 邪馬台国が成立していた頃の日本の遺跡を指摘している。	知・技	40	31	↓
歴史B イ			② 邪馬台国が成立していた頃の東アジアの様子を指摘している。	思・判・表	55	55
歴史B イ	6	(1) 複数の資料から大和政権の勢力が九州地方から東北地方南部にまで及んでいたことを指摘している。	思・判・表	60	39	↓
歴史B イ		(2) 奈良時代の貴族と一般の人々に関する資料から、税や兵役の負担と生活の様子のちがいがわかることについて説明している。	思・判・表	45	58	↑
歴史B ア		(3) 古墳時代、奈良時代に造られた文化財について、資料から選択し、指摘している。	知・技	65	32	↓
歴史B(1)ア	7	(1) 桓武天皇が行った政治について指摘している。	知・技	70	43	↓
歴史B(1)イ		(2) 資料をもとに、藤原氏が勢力をのぼした概略を表現している。	思・判・表	70	61	↓
歴史B(2)イ		(3) 「吾妻鏡」の北条政子の訴えと年表中の承久の乱との関連を指摘している。	思・判・表	45	48	—
歴史B(2)ア		(4) 鎌倉時代の農業の特色を指摘している。	知・技	55	53	—
歴史B(2)イ	8	(1) 建武の新政が引き起こした社会の混乱を示す資料を指摘している。	思・判・表	55	39	↓
歴史B(2)イ		(2) 日明貿易に勘合が用いられた理由を説明している。	思・判・表	60	55	—
歴史B(2)ア		(3) 資料をもとに、室町時代の社会の様子を指摘している。	知・技	65	50	↓

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5ポイントより上の場合：「↑」 ±5ポイントの範囲内：「—」 -5ポイントより下の場合：「↓」

評価の観点	知・技	思・判・表
A設定通過率	62	55
B通過率	58	49

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内		西 北 管 内					
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	本初子午線の理解	85	86	85	88	80	76	77	87
	(2)	本初子午線上に位置する三つの大陸の理解	60	62	62	62	61	58	63	63
	(3)	時差の計算と表現～日本とニューヨーク～	40	34	34	35	39	30	51	39
2	(1)	ケープタウンの位置と雨温図との関連の説明	45	26	26	20	27	31	12	35
	(2)	主題図の比較と読み取り～アフリカ州の降水量と人口分布～	65	79	79	79	75	71	75	80
	(3)	アフリカ州の歴史的背景の説明	60	52	52	56	46	43	41	53
	(4)	モノカルチャー経済の理解	75	50	49	67	35	33	34	38
3	(1)	資料の読み取り～世界各地の人々の生活と住環境～	65	58	58	61	51	50	47	55
	(2)	主題図の読み取りと表現～オーストラリアに暮らす移民の変化～	45	34	33	49	36	34	38	38
	(3)	主題図の読み取り～オーストラリアの移民の移り変わりや貿易の変化～	60	82	81	84	80	78	79	84
4	(1)	① 沖ノ鳥島の理解	50	50	51	44	46	48	44	46
		② 沖ノ鳥島で護岸工事を行った理由の説明	60	72	72	77	68	61	70	73
	(2)	中部地方の地域区分の理解	60	35	35	30	37	38	39	35
	(3)	日本海流（黒潮）の指摘	75	64	64	62	61	58	70	58
5	(1)	① 貝塚の理解	60	91	91	96	91	89	90	93
		② 縄文時代の社会の様子の指摘	50	93	93	91	92	90	93	94
	(2)	① 弥生時代の遺跡の指摘	40	30	29	41	39	37	50	32
		② 弥生時代における東アジアの様子の指摘	55	55	55	58	58	60	56	58
6	(1)	大和政権の勢力範囲の指摘	60	40	40	47	41	38	35	48
	(2)	奈良時代の貴族と一般の人々のくらしの違い	45	63	62	70	57	53	61	59
	(3)	古代の遺物の指摘	65	36	36	31	29	31	25	30
7	(1)	桓武天皇の政治の理解	70	50	50	43	36	32	35	40
	(2)	摂関政治の特徴の表現	70	60	60	54	63	54	68	69
	(3)	二つの資料の関連性の指摘～承久の乱～	45	53	54	49	45	48	44	44
	(4)	鎌倉時代の農業の指摘	55	58	58	55	52	50	56	50
8	(1)	資料の読み取り～後醍醐天皇の政治～	55	43	43	39	38	37	38	39
	(2)	日明貿易に勘合が用いられた理由の説明	60	61	61	61	46	38	49	54
	(3)	室町時代の社会の様子の指摘	65	55	55	53	44	43	48	42
教科全体			59	56	56	57	53	50	53	55

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
80	80	61	87	88	85	87	84	84	86	87	83	81	81	80	83
54	52	59	56	59	61	67	63	56	63	64	62	59	58	61	59
31	30	51	26	24	35	42	38	29	26	29	16	27	26	31	32
15	13	25	20	14	21	22	19	23	24	26	19	19	18	23	22
75	76	71	76	72	78	80	77	78	77	77	74	77	77	77	77
42	41	39	48	45	54	58	56	49	46	45	49	52	53	51	50
49	52	33	52	46	50	52	53	47	40	42	30	42	42	40	46
44	43	40	44	50	53	56	51	52	49	52	37	56	57	52	53
29	30	21	37	26	39	39	34	42	36	38	28	43	42	48	36
78	78	73	77	79	81	85	80	80	80	81	74	83	83	82	81
44	49	27	39	43	51	59	59	41	43	45	33	49	50	46	48
60	62	43	62	63	69	73	70	66	56	59	44	72	71	75	68
37	41	28	29	36	26	35	25	21	22	24	12	30	31	26	32
62	66	47	53	65	63	66	70	57	51	52	46	65	66	61	63
92	90	97	97	95	93	96	95	91	96	97	91	94	94	94	93
90	90	88	92	90	91	91	95	90	88	88	88	91	92	90	91
29	26	39	32	30	38	42	44	33	20	21	18	26	26	23	31
52	48	63	58	51	59	61	57	58	47	49	37	54	55	48	55
32	34	35	29	26	40	47	38	36	37	40	26	42	41	47	39
56	56	55	63	51	57	65	50	55	49	50	44	60	59	65	58
28	26	25	32	35	34	34	34	34	33	33	31	32	33	28	32
42	43	36	49	42	44	46	46	42	40	44	22	41	41	42	43
53	51	53	64	51	67	69	73	64	62	68	36	65	62	77	61
45	44	47	52	45	46	46	53	43	43	45	35	50	49	53	48
49	50	44	48	50	51	48	55	50	51	51	48	53	53	56	53
37	38	34	37	38	40	41	44	37	41	40	44	38	39	35	39
44	38	47	69	48	59	63	68	52	50	54	34	60	58	67	55
49	54	39	45	42	50	48	55	48	44	46	38	51	50	55	50
50	50	47	53	50	55	58	57	52	50	52	43	54	54	55	54

※通過率 (%) は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号	通過率(%)	主な誤答例（無答を含む） (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
1	(3) 32	無答 (10.5) 1月1日午前4時に電話するとよい【時差が14時間であることを求めることができたが、日本の方が時間が遅いと判断している】(6.5) 1月1日午後10時に電話するとよい【時差は4時間で、日本の方が時間が早いと判断している】(4.5) 1月1日午後2時に電話するとよい【時差は4時間で、日本の方が時間が遅いと判断している】(3.0) その他の誤答【二つの地域の経度の差から正しい時差を求めることができない】(34.0)
2	(1) 22	赤道より南にあって日本と季節が逆であるから (13.5) 降水量が500～1000mmであるから (12.0) 無答 (4.0) その他の誤答 (51.5)
4	(2) 32	無答 (19.0) アを日本海側、イを太平洋側 (5.0) アを山陰、イを山陽 (2.0) アを山陽、イを山陰 (1.5) アを東海、イを山陽 (1.5) アを北高地、イを南高地 (1.5) その他の誤答 (30.0)
5	(2)① 31	イ岩宿遺跡とエ吉野ヶ里遺跡を選択 (25.0) ウ三内丸山遺跡とエ吉野ヶ里遺跡を選択 (22.0) イ岩宿遺跡とウ三内丸山遺跡を選択 (8.0) ア登呂遺跡とウ三内丸山遺跡を選択 (5.0) ア登呂遺跡とイ岩宿遺跡を選択 (4.5) その他の誤答 (3.0)
6	(1) 39	日本の広い範囲に及んでいたこと (25.0) 無答 (6.0) 大きいものだという事 (3.5) 関東地方に多いこと (3.0) 西日本側が勢力範囲だった (3.0) 西や東に勢力を伸ばしている (2.0) その他の誤答 (14.0)
7	(1) 43	ウ奈良時代（聖武天皇）を選択 (25.0) イ飛鳥時代（天智天皇）を選択 (16.0) ア飛鳥時代（推古天皇、聖徳太子）を選択 (15.0) その他【誤記号を記入】(0.5)
8	(1) 39	ウ鎌倉時代の資料「永仁の徳政令」を選択 (44.0) イ鎌倉時代の資料「阿氏河荘荘民の訴状」を選択 (15.0) 無答 (0.5)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 ②(1)

○出題のねらい

資料からケープタウンの位置情報を読み取り、判断したことを説明する問題である。出題の意図は、複数の資料から読み取った情報を基に、ケープタウンの気候の特色を表現する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、求める条件2つのうち片方のみ記述した誤答（「雨温図の気温に着目し赤道より南に位置する」「アフリカ州の降水量の略地図から年降水量が500～1000mmである」）が多くみられた。

課題として、読み取った情報を書いたり、話したりして表現する力や、複数の情報を関連付けて思考・判断する力が十分に定着していないことが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、段階的に思考を深めていく学習過程を通して、資料から読み取った情報を互いに表現し合うなど、協働的な学習活動を行うことが大切である。

【知識構成型ジグソー法の手法を用いた例】
 Ⅰ 個人で資料から読み取った情報をシートに書き出す活動→同じ視点から情報を読み取った生徒どうして話し合う活動（エキスパート班）
 →Ⅱ異なる視点から情報を読み取った生徒と話し合う活動（ジグソー班）

指導例

複数の資料を読み取り、自然条件と人口分布の関係を考えさせる指導
 ～単元名「アフリカ州」～

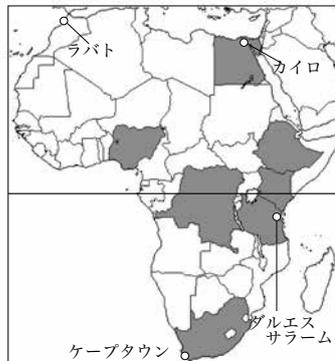
【指導の流れ】

1 本時の学習問題を設定させる。

学習活動 世界の統計資料を基に、アフリカ州で人口が多い上位7国を調べ、白地図に色を塗る。



白地図に色を塗ったところや4つの都市の位置について、何か気がついたことはありますか。



人口の多い地域にはばらつきがあるけど、なぜかしら。



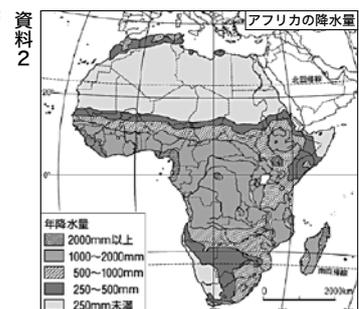
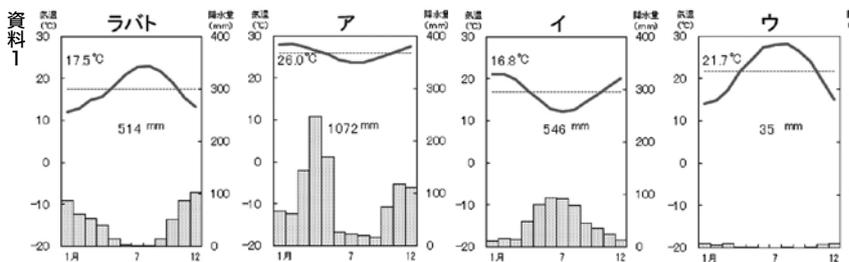
4つの都市は、すべて海沿いにあるね。

気候や地形などが関係しているのかな。



- ポイント**
- ・白地図にまとめることで、人口分布のばらつきを視覚的に確認させる。
 - ・赤道に着目し、考えられる気候帯と都市の位置との関係に注目させる。

<学習課題> アフリカ州の人口分布と気候には、どんな関係があるのだろうか。
 ～白地図の4つの都市の雨温図の特色を明らかにする活動を通して～



2 学級を3つのグループに分け、それぞれ異なる視点から情報を読み取らせる。

学習活動① グループごとに異なる視点から情報を読み取り、考えられることを整理する。

・グループAの視点：**資料1**の気温の変化と、**資料2**の位置との関係から

(1) 気温について

	ラバト	雨温図ア	雨温図イ	雨温図ウ
もっとも気温が高い	8月	(1月)	(1月)	(8月)
もっとも気温が低い	1月	(8月)	(8月)	(1月)

(2) 位置について 赤道より北にある → ラバト (カイロ)

赤道より南にある → (ダレスサラーム) (ケープタウン)

(3) (1)と(2)から、考えられること

雨温図ウがカイロ(ラバトと同じ北半球で、気温の変化が似ている)
雨温図アがダレスサラーム(赤道に近いから、年中気温が高い)



・グループBの視点：**資料1**の降水量と、**資料2**の降水量との関係から

(1) **資料1**から読み取れる年降水量

ラバト 514mm 雨温図ア (1072mm) 雨温図イ (546mm) 雨温図ウ (35mm)

(2) **資料2**から読み取れる年降水量

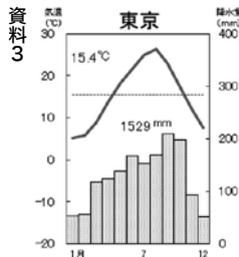
ラバト	500mm~1000mm	カイロ	(250mm未満)
ダレスサラーム	(1000mm~2000mm)	ケープタウン	(500mm~1000mm)

(3) (1)と(2)から、考えられること

資料2と対応させて考えると、雨温図ウがカイロ、雨温図アがダレスサラーム、雨温図イがケープタウンになるね。



・グループCの視点：**資料1**と**資料3**(東京・温帯)の雨温図との比較から



(1) 平均気温が東京(15.4°C)と近い (3) (1)と(2)から、考えられること
(2) 気温の変化(折れ線)が東京と似ている

		(1)平均気温が東京と	
		近い	近くない
(2)気温の変化が東京と	似ている	ラバト	雨温図ウ
	似ていない	雨温図イ	雨温図ア

雨温図イは温帯だと思います。雨温図アと雨温図イは、東京と気温が逆だから、南半球にある都市だと思います。



学習活動② 異なる視点から読み取った情報を関連付ける。



雨温図アは熱帯でダレスサラームです。理由として、赤道付近だから年中暑いし、4つの都市で最も降水量が多いからです。

雨温図イは温帯でケープタウンです。理由として、赤道より南に位置しているので、日本と寒暖が逆になっているからです。



雨温図ウは乾燥帯でカイロです。理由として、赤道より北に位置しているので、東京と気温の変化が似ているし、他の3つの都市と比べて降水量が明らかに少ないからです。



ポイント

- ・自分の言葉で、学習課題に対するまとめ文を記述させる。
- ・本時で学んだことを振り返り、新たに疑問に思ったことに気付かせるなどしながら、次時以降の学習の見通しをもたせる。

(例) ・降水量がほとんどない乾燥帯地域では、どのように食料を手に入れるのか。
・人口が増え続けるアフリカ諸国で、人々の暮らしをよりよくするにはどうすればよいのか。

○課題の見られた問題 6(1)

○出題のねらい

複数の資料から大和政権の勢力が九州地方から東北地方南部にまで及んでいたことを指摘することができるかを判断する問題である。大和政権の勢力範囲について、支配者であるワカタケル大王の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されたことと前方後円墳の分布の資料を関連付けて指摘する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、ワカタケル大王の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見された場所と、前方後円墳の分布の広がりに関連付けたことを的確に判断し指摘することができず、「日本の広い範囲に及んでいた」と大まかに解答する誤答が多く見られた。

原因として、ワカタケル大王の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が大王の支配の影響を意味することを理解していないことと、前方後円墳の分布と関連付けながら日本の地域区分を活用して的確に判断できなかつたことが考えられる。

課題として、習得した既習事項を活用したり、複数の資料を関連付けたりして問題解決に向けた取組が十分でないこと、歴史的事象を多面的・多角的に捉えて思考・判断する力が十分身に付いていないことが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、歴史的事象を羅列的に学習するのではなく、習得した既習事項を活用したり、複数の資料を関連付けたりして問題解決を進めるような学習過程の工夫や視点を明確にした協働的な学習場面を設定するなどの工夫が必要である。また、歴史的事象の多面性に着目したり、様々な立場などから多角的に捉えたりする思考場面を設定するとともに、対話的な学びを通して歴史的事象の背景や意義を考察したり検証したりする活動の工夫が必要である。

指導例

既習事項を活用したり、複数の資料を関連付けたりする活動を通して課題を追究させる指導
～単元名「日本列島の誕生と大陸との交流」～

【指導の流れ】

1 弥生時代と古墳時代について、今まで学習したことを振り返らせる。

学習活動① 前時に学習した弥生時代の特徴をペアで確認する。

《挙げられた既習事項》



弥生時代の特徴は、大陸から稲作が伝わった時代だったね。



国王の中には、中国に朝貢していた王もいたね。

奴国の王や卑弥呼が活躍していたね。



学習活動② 大仙古墳の写真を手掛かりに、小学校で学習した古墳時代について覚えている語句を挙げる。
《挙げられた既習事項》

前方後円墳

大和朝廷

はにわ

豪族

大王

渡来人

ポイント

学習活動②の後に、挙げられた既習事項を2つ以上使って古墳時代の特徴について説明文を作成させ、黒板に掲示するなどして既習事項を活用できるように教師側が工夫する。

2 課題を追究させる。

学習活動① 学習課題に対して予想する。



弥生時代には30ほどの国々が各地を支配していましたが、古墳時代の大和朝廷は、どのようにして勢力を広げていったのでしょうか。



中国から進んだ技術を取り入れて国の力を強めたのかな。

もっと強い力をもつ王が登場したのかな。



渡来人から多くの進んだ技術を取り入れて国づくりに役立てたのかな。

ポイント 日本国内だけでなく、中国や朝鮮半島との関わりについて予想させる。

学習活動② 調べる視点①「指導者（大王）について」、②「中国・朝鮮半島との交流について」を明示し、個人で調べた後に、グループで考察させる。

大和政権はどのようにして勢力を拡大していったのだろうか

視点①「指導者（大王）について」

資料「前方後円墳の分布」から、九州地方から東北地方南部に広く前方後円墳が分布しているため、大和政権の支配がその範囲に広がっていた。

資料「ワカタケル大王(武)の名を刻んだ鉄剣と鉄刀」から、大和政権の王が九州地方から東北地方南部まで勢力が及んでいた。

資料「倭王武の手紙」から、大王は東は55国、西は66国、さらに海をわたって95国を平定した。

視点②「中国・朝鮮半島との交流について」

教科書本文から、大和政権は、朝鮮半島南部の伽耶地域の国々や百済と交流が深く、その援軍として、高句麗や新羅と戦うことがあった。

教科書本文から、大和政権は、中国の南朝に朝貢し国内での地位をより確かなものにするとともに、朝鮮半島の国々に対しても有利な立場に立とうとした。

資料「古墳から出土した鉄の延べ板」「須恵器」から、大和政権は、朝鮮半島からさまざまな技術や生活文化を伝えた渡来人を盛んに採用した。



大和政権は、九州地方から東北地方南部まで勢力を拡大していたんだね。

大和政権は、さまざまな技術や生活文化を伝えた渡来人を積極的に採用して、国づくりを行ったんだね。



大和政権は、弥生時代と同じく、中国への朝貢を通して国内での地位を確かなものにしようとしていたことが分かりました。

ポイント

- ・今後の学習においても、東アジアとの交流を通して、日本の国家の仕組みが整えられていくことから、東アジアとの関わりを意識してまとめさせる。
- ・まとめる際には、視点①「指導者（大王）について」と視点②「中国・朝鮮半島との交流について」をつなげて、自分の考えとして文章でまとめさせる。
- ・ICTを活用して、効果的にまとめさせる方法もある。